



## 子どものおしりはどうして青いの

### それは児斑とよばれている

赤ちゃんや小さな子どもの、背中からこし、おしりにかけて見られる、うっすらとした青いぶち（はん点）のことを、以前は「もうこはん」といっていました。

白人の赤ちゃんや、小さな子どもには見られないことから、日本人のような人種に見られる特徴だとされて、「蒙古斑」とよばれていたのです。しかし、蒙古人という、特定の民族に失礼だということで、今では「児斑」とよぶようになりました。

「児斑」は、赤ちゃんほどはっきり自立ち、年をとるにつれて消えていきます。

じつは、白人（白色人種とよばれるヨーロッパ人など）の赤ちゃんにもあるのですが、白人では、メラニンの量が少ないため、あっても見えないのだそうです。

### 「児斑」ができるのは

人間の体は、細胞という、小さな小さなものでできていますが、「児斑」は、赤ちゃんがお母さんのおなかの中で、育てている間に、皮ふの色をつくりだす細胞が、体全体にちらばっていったときに、おしりに残ったものなのです。ですから、成長するにつれて必要がなくなり、消えていくのです。（監修・保志 宏）

